

「私の自然観察路」レポート (R2. 1. 7)

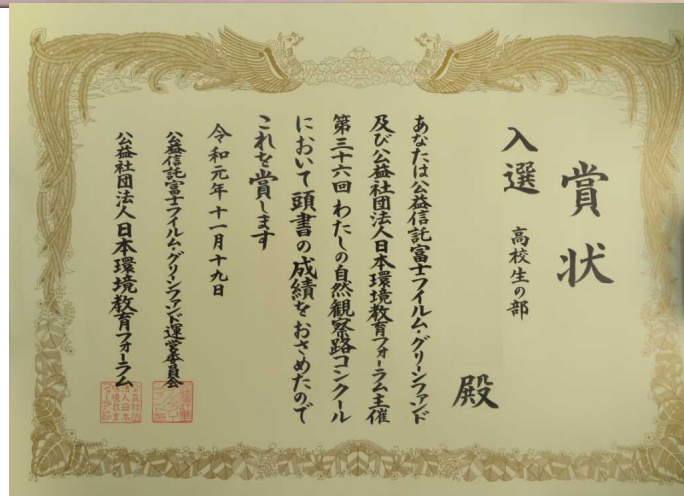
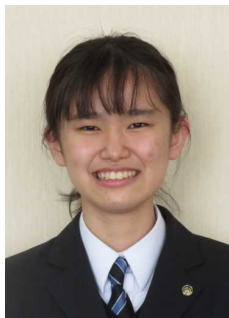
わたしの 自然観察路コンクール

公益社団法人
日本環境教育フォーラム

夏休みの自由研究に最適。動植物が活発な時期だから、自然を見るチカラを養おう!



おめでとう!



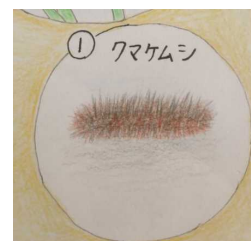
全体説明

群馬県佐波郡玉村町の北部公園を観察した。私が幼い頃から訪れている身近な場所で、池や林があり、子どもたちが気楽に多様な自然と触れ合うことができる。トンボやカエル、クヌギ、バラなど比較的大きな動植物だけでなく、よく見るとコケ、地衣類という小さな生き物たちが生息している。私はそんな小さな命にも着目して観察した。コケは種類が多く特定に苦労したが、拡大鏡で観察することで特徴をつかむことができた。よく観察しないとわからないそれらの美しさやたくましさを見て欲しい。観察で疑問に思ったことを調べてみると、それぞれの植物、動物がどのように命をつないでいるか、どのくらい環境に影響されているかが見えてくる。人が自然に介入しすぎることは釣り合いの取れた自然を壊していくことや生き物の絶滅につながる。懸命に生きているその命を奪わないよう、私たちはもっと深くこの素晴らしい自然を知るべきなのかもしれない。



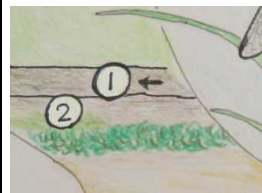
①「意外とかわいいクマケムシ」

公園の入り口でクマケムシが出迎えてくれた。クメケムシはエサを求めて地上を積極的に移動する性質のためか、公園近くの地上で何度か見かけた。毛の生えた身体をモコモコさせて移動する姿は可愛らしく茂みにたどり着くまで見守った。日本では目にすることは多いクマケムシだが、イギリスでは保護する対象リストに入っている。日本でも身近な生き物の姿が気づいたら見られなくなっているかもしれない。



②「地面に生えるコケ達」

公園に向かう道端で雪柳の根本にハタケゴケとスナゴケを発見した。ハタケゴケは葉状体が地面に張り付くように広がっていた。ゼニゴケにも似ているが葉状体に筋が入っておりゼニゴケのようなテカリがなく。無性芽器が無い。スナゴケは直立体でゼニゴケよりも明るく黄緑色をしている。葉の先端が尖って真上からは星のように美しかった。普段通り過ぎるような場所でも見方を変えると面白い発見がある。



* ③～⑩は略しました

